

## (令和2年度自己評価公表シート)

## 1. 本園の教育目標

「強く、正しく、美しく」を建学の精神とし、「基本的生活習慣を身につけ、たくましい心身や思いやりの心を育て、よく考えて行動できる子どもを育成する」を教育の目標として日々の保育に取り組む。

幼児期にふさわしい生活が送れるよう、異年齢交流や自然観察の機会を多く取り入れ、直接的な体験学習をし、伸び伸びと「自主・協力・創造」する力を培う保育を展開する幼児教育を目指している。

## 2. 本年度に重点的に取り組む目標や計画

自己点検・自己評価を行い、下記の点について重点的に取り組む

- 1、感染症対策を講じながら、保育計画を見つめなおす。
- 2、教師が客観的に保育を振り返り、保育や業務に必要なスキルアップに努める。
- 3、子どもが主体的に過ごせる環境づくりや保育の質を高める。
- 4、就学までに育てたい子どもの姿を明確にし、たてよこのつながりを大切に教職員間で共有する。
- 5、事務や園務の効率化と園の情報発信をはかる

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
ア. 客観的に自らを振り返られるよう、教師間での打ち合わせの機会を多く持つ	感染症対策を行いながら、保育の実施方法について、より話し合う機会が増えた。コロナ禍でできることを話し合ったり、家庭への連絡を一層密に取ったり、情報共有を行うことで安定した保育実践が行えた。又、自己を振り返る機会を多く持つことができたことで、自己のスキルアップにもつながった。
イ. 信頼される教師になる	コロナ禍で休園期間もあり、保護者や園児との関係づくりが難しい年でもあったが、家庭と園と子どもの成長の共通理解を図り、保育の信頼性を高めることができた。しかし、まだ保育活動の意図をうまく伝えきれていない部分もあるので、今後も発信の仕方を工夫して信頼される教師となれるよう努める。
ウ. 子どもがすすんであそびを考え工夫できる環境を整備する	感染症対策で、個々であそべるものを多く用いたり、共有物は消毒作業をして安全に配慮しながらあそんだ。子ども自身が考えあそびこめるまでにはいかずにいたので、今後も環境づくりについて話し合いを進めていく。
エ. 異年齢保育の充実や入園から就学までを見通した、保育内容を実践する	教員同士、他学年へ関わる機会が増え、成長の違いに気づくことができた。ただ、コロナ禍でたてわり保育など、ふれあいの活動が減少してしまった。チームや学年のたてよこの良いところを継続し、異年齢のふれあい活動の環境構成についても、もっと話し合う機会を増やしていく。

オ、事務や園務の効率化と園の情報発信をはかる	ICT化で事務や教員の園務が減り、効率化が図れている。保護者の参観など来園の機会が減ったため、園生活の様子を伝えるため動画配信を行った。園の細かな情報発信は今後も検討していく。
------------------------	--

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

感染症対策を踏まえての保育内容や環境の見直しで話し合いの機会がより増え、教職員間でのコミュニケーションや共通理解が増えた。又、学びを止めないという思いから、保護者への情報発信の手段が増え、園内に入れない環境下での保育の様子を伝えることができた。しかし、異年齢交流やふれあい活動などの機会が減少し、たてのつながりを見直す必要がある。限られた時間での子どもが主体的にあそびを広げる保育が十分ではなかった為、今後も環境づくりを見直し実践に努める。

#### 5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
魅力ある園づくり	安心安全な保育環境づくりと信頼される人材育成を行いながら園の特色を発信し、愛される園づくりを目指す。
チーム保育の機会を多く持ち、人間関係の構築を図る	異年齢のチーム保育を年間を通して継続的に実践し、教職員間での園児の情報共有・保育内容の見直しを行い、たてのつながりの協力体制を整える
未就園児保育の充実	2歳児の育ちについて学び、子育て支援を充実し、満3歳児への学びにつなげる。

#### 6. 学校関係者の評価

課題としては、ほぼ達成できているとの評価だった。  
 コロナ禍において参観等が減ってしまったが、普段の保育の様子動画配信や、担任から保護者へのこまめな連絡など、より一層家庭との連携を進める姿勢が感じられたので良かった。またICT化が進められ、教職員だけでなく保護者にとっても利点が増えているので今後さらに拡充をして欲しい。  
 感染症対策を行いながら工夫をして、子どもの学びを止めず保育して欲しい。

#### 7. 財務状況

公認会計士監査により適正に運営されていると認められている。